

被爆・戦後 80 年を越えて 平和とよりよい暮らしをめざして

日本生活協同組合連合会
代表理事専務 藤井 喜継

2025 年、私たちは被爆・戦後 80 年という大きな節目を迎えました。

私たち日本生協連は創立以来、「平和とよりよい生活のために」という理念のもと全国の組合員とともに、戦争・被爆の悲惨な体験を学びあい、伝えあい、戦争も核兵器もない世界を心から願い、平和活動に取り組んできました。

被爆者の方々は、深い苦しみと悲しみを乗り越え、「二度と被爆者をつくらない」「核兵器のない世界を」と、命をかけて語り継いでくださっています。その切実な願いは、私たち一人ひとりの心に深く刻まれています。

しかし今、世界はかつてないほど平和の危機に直面しています。ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、「核兵器使用の脅し」が現実味を帯びています。また、アジア太平洋地域でも緊張が高まり、世界の核兵器保有数は増加傾向にあります。日本においても防衛費の増加や安保 3 文書の見直しが行われており、その中で非核三原則の見直しの可能性についても報道されており、強い危機感を覚えます。

日本は唯一の戦争被爆国として、「持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則を国是として守り続けてきました。被爆者や戦争経験者が少なくなる今こそ、私たちは過去の痛みと向き合い、核兵器が人間と共存できないことを、未来を担う世代にしっかりと伝えていかなければなりません。そして、何よりも大切な一人ひとりの「命」と「暮らし」を守るため、日本政府には核兵器廃絶を目指し、世界へリーダーシップを発揮していくことを切に求めます。

全国の生協の皆さんとともに、被爆・戦後 80 年を越えて、これからも「平和とよりよい生活のために」、戦争も核兵器もない世界の実現に向けて一緒に歩みを進めてまいりましょう。誰もが大切な人とつながり、日々、笑顔でくらすことができる世界の実現を心から願って。

以上